

国外伝道の働きのために、祈りと献金をもって支えてくださり、心より感謝申し上げます。世界祈禱週間を前に、最近の国外伝道の様子をお知らせいたします。宣教師の先生方や国際ミッション・ボランティアの働きをとおして、主の福音が分かち合われ、喜びが起こされていることを、諸教会でもお分かちください。

覚えて頂きたいことは、シンガポール派遣宣教師岡村直子先生が今年12月（12月までが任期）をもって任期を終了し、帰国されることになったことです。これはシンガポール国際日本語教会が自らの力で牧師を招聘する段階に至ったという教会成長を評価してのことです。岡村直子宣教師と教会員の働きを心から喜び、主に感謝いたします。今後とも、シンガポール国際日本語教会を支援し、協力する関係は続いています。

また、国外伝道の理解や働きを広げ、諸外国の宣教に仕えるために設けられた国際ミッション・ボランティアが次々と起こされていることも喜びの出来事です。ホームページでも直近の活動状況が紹介されています。ご覧下さい。
室長 播磨 聡

タイ

ひだか よし ひこ
日高 嘉彦 宣教師

ひだか りゅう こ
日高 龍子 宣教師

主の聖名を賛美します。

私達はタイ伝道13年目になりました。励ましとお祈りにいつも支えられています。

祈りの課題

①バプテスト神学校での働きを通して、人を育てるために

嘉彦は今学期、「ルツ記、エステル記」を教えています。タイ語の5つの聖書翻訳を比較し、意味や思想についての理解の幅がどの程度あるのか、その原因はどこにあるのかを、学生の発表と討論を通して検討しています。毎回とても活発な議論がされ、刺激的で楽しい授業です。来学期は、「イスラエル史」「律法」を教える予定です。

龍子は会計主事として神学校の実務が滞りなく行われ、間違いの無いように奉仕しています。

学生達は私達の牧会の経験、日本の教会の課題や取り組みなどを紹介すると非常に興味を持って聞いています。今後少しでも彼らの助けになれるようお祈り下さい。

②タイの社会情勢のために

タイは昨年のクーデター以来、政情不安な状態が続いています。現在、軍は背後に退いて民政に戻りました。しかし繰り返す大規模なデモが行われ、9月2日には流血事件もあり一時非常事態宣言が出されました。根本的な原因として都市と地方の格差、富める者と貧しい者との格差が広がっていることがあります。そして、民衆の不満を利用して権力を握ろうと争っている人々があります。

タイのキリスト者が、真に助けを必要としている人々の力となるように。この国の真の平和と安定のために私達も手助けができればと願っています。

③サマリヤの家、ジンジャイ孤児院、スワンプルーコミュニティ図書館のために

上記の施設はこの10年来女性連合やバプテスト連盟の様々な方々と共に関わりを持ってきました。そこにいる子供達は様々な困難を背負っています。そのような彼らをキリスト者の活動や、多くの善意が支えてきました。子供達は誰かが自分たちのことを少しでも気に掛けてくれ手を差し伸べていることに、とても勇気をもらい希望を与えられています。その中で「ピーノンバプテストオープン（日本のバプテストの皆さん）」は彼らのために、遠く日本から愛を運んでくれる特別な存在になっています。子ども達がタイの厳しい社会情勢の中にあっても、守られ続けられるようお祈り下さい。

④家族の健康、子どもの進路のために

年間を通じての酷暑と排気ガスの中にいます。紫音（大2）、嘉信（高3）は進学のため親元を離れています。主の守りと支えをお祈りください。

コッアマーカ（ありがとうございます）



◎サマリヤの家：聖書を学ぶ子ども達

◎ジンジャイ児童福祉施設にて

シンガポール

おか むら なお こ
岡村 直子 宣教師

頌主

日本バプテスト連盟につながる皆様、任務終了のご報告と共に感謝のご挨拶を申し上げます。私は2003年末に12年8ヶ月間仕えた福岡国際キリスト教会の牧師を辞し、2004年1月からシンガポール宣教師として準備の期間を経て5月にシンガポール国際日本語教会(IJCS)の2代目の牧師として就任いたしました。今年の12月



◎9月7日ファミリーキャンプ主日礼拝。バックはキャンプのスローガン、IJCS God's Familyの壁紙。

この度、今年末でシンガポール派遣宣教師の働きを終えることになりました。就任して以来、様々なことを経験してまいりましたが、私のような欠けの多い器を主は用いてくださり、喜びも悲しみも全てをもって教会にとっての成長に役立ててくださったと、感謝深く思います。転勤等でシンガポールを離れる教会員の方々が毎年平均すると6名にもなりますが、バプテストマや転会者も多く与えられ、現在は40名の教会員と準会員の子ども4名になり、色々な教育プログラムが自主的、あるいは必然的に生まれて、祝福をいただいています。

2004年8月から、シンガポール政府に承認された教会になっていますので、礼拝や集会をすることはゆるされていますが、現在の教会規約には、役員会の構成について、過半数がシンガポール市民でなければならない、という項目があります。今年の役員会はどうしてもその規約を満たすことができず、政府の担当機関に足を運び、何度も手紙を出してこちらの事情を説明して、やっと今年度1年間だけ特別に外国人が過半数の役員会が認められました。来年3月末までに現在の教会規約を改定してそれが承認されることを願っています。この地に根ざしたしっかりした教会を形成する要となる問題なので、切に祈り願いつつなすべきことを進めています。

IJCSはシンガポール連盟に所属する教会であり、更に費用を受けての宣教師派遣も終了しますが、今まで築かれてきた日本バプテスト連盟諸教会との友好関係を大切にしつつキリストの教会として活動していくことでしょうか。これまで、物心共に支えてくださり、本当にありがとうございました。

主の御名を
讃美します。
♪// 岡村直子



◎7月27日 UCS 創立12周年記念礼拝



◎ファミリーキャンプの子ども礼拝



◎アグネスさんの自宅を訪問して



ルワンダ

さ さ さ かず ゆき
佐々木 和之 国際ミッション・ボランティア

バプテスト連盟の皆さま、お元気でお過ごしですか？ルワンダでの働きも4年目に入りました。現地の人々との顔の見える関係ができてくるにつれ、彼・彼女たちの哀しみ、苦しみ、喜び、希望について、少しずつではありますが、感じ取れるようになってきたのではないかと考えています。その分、喜怒哀楽の激しい生活を送ることになり、気付いてみると心と体がずいぶん疲れていることがあります。このところ、ルワンダの人々の和解への歩みは、まさに命がけの闘いなのだとおぼやかれています。しかし、私たち人間がコントロールできる範囲ではありません。この地に生かされている私たち一人一人が、常に和解の主であるイエス様に祈り、委ね、希望をおいて歩んでいくことができますようにお祈り下さい。

祈りの課題

① REACHの働きを担う兄弟姉妹のために

つい数日前、アグネスさんというREACHの働きを現場レベルで担って下さっている女性が、自宅に押し入ってきた暴漢に襲われるという事件が起きました。動機等についてははっきりしていませんが、村のガチャチャ裁判で積極的に虐殺当時の状況を証言している彼女の口封じのために仕組まれた犯行ではないかとの見方があります。彼女の体と心の回復のために、そして、二度とこのような危険に晒されることの無いようにお祈り下さい。また、カリサ牧師をはじめ、REACHの5名のスタッフたちの健康・安全・働きのために。

② 「償いのプロジェクト」をはじめ、REACHの働きのために

政府の介入により中止の危機に立たされていた「償いのプロジェクト」は、7月に「復活」を果たし、今約140名の虐殺被害者が被害者側の家族のために家造りに励んでいます。ささいなことから衝突が起これば、それまでの関係修復の取り組みがもろくも崩れ去ってしまうという緊張感の中で進められています。主の守りと導きがあるように。

③ ピース・インターナショナル・スクールのために

女性連合からご支援を頂いているピース・インターナショナル・スクールが、キガリ市の都市開発のあおりで立ち退きの危機に晒されています。立ち退きの時期や補償金等の条件は未だに不透明ですが、これから試験の時を迎えることは必至です。このような逆境の中でも、コンゴ難民と貧しいルワンダ人家庭の子ども達への教育の働きが決して閉ざされることのないように。



④ 家族の健康と安全のために

家族皆の健康・霊性が整えられて現地での生活を喜んで続けることができるように。ケニアの高校に進学した前（長女）が、新しい環境に馴染めるように。

佐々木さんの活動が
TV放映されます！

11月27日（木）
午後9時10分から
NHK衛星第1放送
世界のドキュメンタリー
「償い」への家造り
— ルワンダ・集団殺戮から
の模索 —



◎佐々木さんファミリー



◎北山山岳伝道にて



タイ

すき やま
杉山 いずみ 国際ミッション・ボランティア

国際ミッションボランティアとしてタイの地へ派遣される
ことが決まり感謝をしています。

10年ほど前より「世界で苦しみの中にある子どもたちの元へ行かなければ。」という思いを与えられ、いつ、どこに主が
遣わされるのかと御心を待ち続けていましたが、長い間道が
開かれなかったため、この思いは自分の思いであって、主の
御心ではないのではないかとおぼやかようになっていました。けれども、10年間の歩み
を振り返ると全てが主の御計画のうちであり、主の召しに応じていくための準備の期
間であったのだと感じるようになりました。



2005年と2007年に女性連合派遣のタイ・フィールド伝道に参加する機会をいた
だき、その奉仕と出会いの中でタイでの働きを考えるようになりました。タイには貧
富の差、麻薬、エイズ、児童買春などの問題が多くあり、苦しみのうちに救いを
必要としている子どもが多く居ることを知りました。また、子どもたちの救いのため
に、福音を伝えるために、日々祈り働いておられるタイの兄弟姉妹と出会う機会を
たくさんいただきました。

タイの地で主に仕えるためにタイ語を学びたいと思い、今年の4月から3ヵ月半の
語学研修にタイのバンコクに行ってきました。語学研修の合間にサマリアの家を訪問
したり、インマヌエル教会の伝道の働きに加えていただく機会をいただきました。わ
たしにできることは小さなことですが、わたしが居ることで「日本の兄弟姉妹がタイ
を覚えて祈ってくれていると感じることが出来て励まされる。」と行く先々で「共に
居る」ということを喜んでいただきました。また、タイ語で会話ができるようになる
につれて子どもたちや、教会スタッフともより親しい交わりをすることが出来るよう
になりました。

今回は、国際ミッションボランティアとして更に多くの方々を祈りをいただいて、
タイの子どもたちの救いのために、また福音伝道の働きのために奉仕を相わせていた
だきたいと思っています。バンコクのインマヌエル教会に滞在させていただき、スラ
ム伝道や孤児院の支援、麻薬厚生施設や津波の被災地支援などに共に出かけ、伝道の
働きに加えていただきます。また、女性連合が長年支援を続けてきたサマリアの家で
も子どもたちの心のケアと賛美指導、聖書教育などが求められているので、月に一度
は訪問し奉仕をしたいと思っています。

タイの地で学んだことや受けた恵みを日本バプテスト連盟諸教会の兄弟姉妹と分か
ち合い、共に祈っていくことができたかと願っています。
お祈りよろしくお願いします。

—あなたがたも祈りで援助してください。そうすれば、多くの人のお陰でわたしたち
に与えられた恵みについて、多くの人々がわたしたちのために感謝をささげられる
ようになるのです。 コリント信徒への手紙二 1章11節—



◎派遣先のインマヌエル教会の青年伝道隊